

日本・ASEAN 間のコンテナ輸送動向（②輸入）

掲載誌・掲載年月：日刊 CARGO1506

日本海事センター企画研究部

研究員 松田 琢磨

はじめに

日本と ASEAN 諸国は経済的結びつきを強めており、貿易の拡大に合わせてコンテナ輸送も増えている。にもかかわらず日本・ASEAN 間コンテナ輸送の動向については、あまり知られていない。そこで、前回と今回の 2 回にわたって日本・ASEAN6 か国間（ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア）のコンテナ輸送の動向につき、財務省「貿易統計」のデータを使用し、まとめていくこととした。

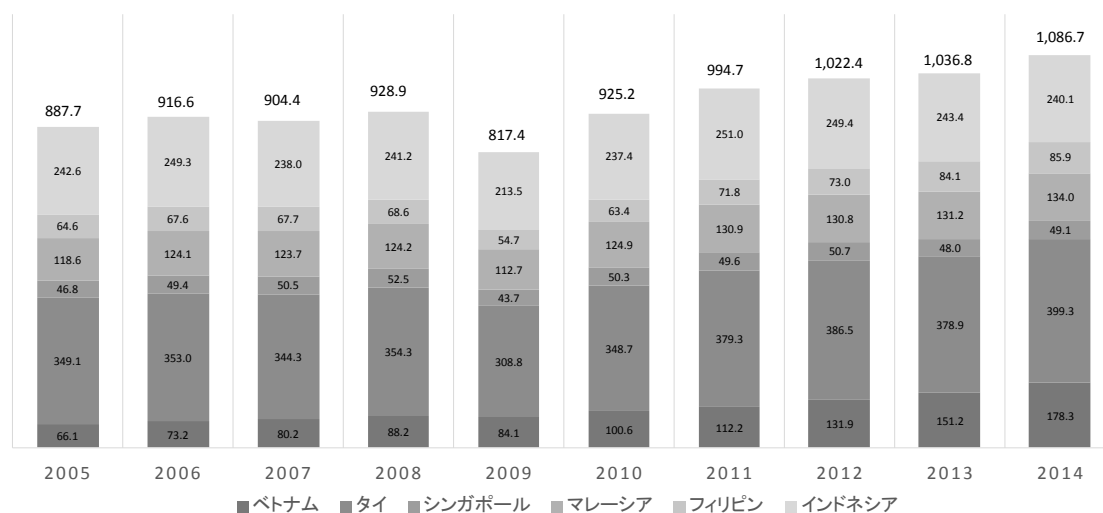
前回の記事では日本からの輸出についてまとめたが、14 年のコンテナ輸送量は 936.0 万トンで、05 年から年平均では 3.6%の増加だった。規模で見ると、日中往航には及ばないものの、日韓往航とは同等、北米往航や欧州往航は上回る規模であることがわかった。今回の記事では、日本向けの輸入についてまとめていくこととしたい。

ASEAN6 か国積み・揚げコンテナ輸送の推移

05 年における ASEAN6 か国・日本揚げコンテナ輸送量は合計 887.7 万トンだった（図参照）。この時点で最も輸送量が多かったのはタイ積みのコンテナ貨物であり、39.3%のシェアを占めていた。それに次ぐのはインドネシア積みで 27.3%、マレーシア積みで 13.4%、フィリピン積み、ベトナム積みは 7%強、シンガポール積みは 5.3%だった。6 か国の中で最も輸送量が多いのは 14 年においてもタイ積みで、シェアは 36.7%となっている。インドネシア積み、ベトナム積み、マレーシア積みがそれに次いでおり、シェアはそれぞれ 22.1%、16.4%、12.3%となっている。

輸送量は 08 年までは基本的に増加していたが、09 年に減少した。10 年以降は増加を続け、14 年のコンテナ輸送量 1,086.7 万トンとなった。05 年からの平均増加率は 2.3%であった。ただし、近年の ASEAN6 か国積み・日本揚げコンテナ輸送量増の大半はベトナム積みとタイ積みの増加で説明されてしまう。05 年から 14 年までの ASEAN6 か国積みの輸送量の増加は 22.4%であるが、ベトナム積みの増加が 12.6%分、タイ積みの増加が 5.7%分を占めており、インドネシア積みは 05 年に比べて 14 年の輸送量が減少している。

復航輸送量 ÷ 往航輸送量 × 100 で計算され、往復航の荷動き量の格差を示すインバランスは、年々小さくなって輸入超過は小さくなっている。インバランスは 100 を超えると輸入超過を示すが、05 年の 130.2 であったが、14 年には 116.1 となった。



図：ASEAN6 各国積み・日本揚げコンテナ輸送の推移（2005～2014年、単位：1万トン）
 データ出所：財務省「貿易統計」より筆者作成

ASEAN6 各国積み・日本揚げコンテナ輸送の品目別動向

14年におけるASEAN6 各国積み・日本揚げコンテナ貨物のうち、最も輸送量が多かった品目は「プラスチックおよびその製品」で全体の13.0%を占めている。この品目の約半分はタイからの輸入であるが、他の国からの輸出品目でも上位に入っている。具体的な品目をみるとタイからのポリエチレン製品、マレーシアからのエチレン製の板・シートに加え、シンガポール以外の5か国からはプラスチック製の箱が多く運ばれている（表参照）。第2位は「木材およびその製品ならびに木炭」で9.4%のシェアを占めている。フィリピン、インドネシア積み、マレーシア積みが87.4%と大半となっている。また、フィリピン積みのうち、39.3%はこの品目の輸出によるものである。具体的な品目ではインドネシア積みの木製建具、繊維板、フィリピン積みの合板、木製品などが挙げられる。第3位は「ゴムおよびその製品」で、シェアは8.3%となっている。このうち約半分がインドネシア積みであり、この80%以上がブロックゴムとなっている。インドネシア積みではこのほかは自動車用タイヤが多い。インドネシアに次いで同製品の輸送量が多いのはタイであり、技術的格付けをした天然ゴム、スモークドシート、自動車用タイヤが主な品目となっている。上位3品目でASEAN6 各国積みの30.8%を占めており、ASEAN から日本へ運ばれてくるコンテナ貨物の上位品目は材料や部品が多いことがわかる。

第4位は「機械類」でシェアは5.0%となっているタイ積みの冷蔵庫類、エアコン、印刷機、洗濯機のほか、フィリピン積み、マレーシア積みの光ディスク装置が主な品目となっている。第5位は「家具・照明器具類」であり、シェアは4.7%となっている。

この半分を占めるのが棚つき家具で、その他にも台所、寝室用の木製家具も多くなっている。この品目の約4割がベトナム積み、マレーシア積み、インドネシア積み、タイ積み、フィリピン積み、シンガポール積みは多くない。

表：ASEAN6 各国積み・日本揚げコンテナ輸送量の品目別輸送量（2014年、単位：万トン）

ベトナム				タイ			
HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア	HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア
94	家具・照明器具類	21.0	11.8%	39	プラスチックおよびその製品	69.8	17.5%
39	プラスチックおよびその製品	15.1	8.5%	40	ゴムおよびその製品	34.9	8.7%
85	電気機器およびその部品	10.9	6.1%	16	肉・魚などの調製品	29.8	7.5%
44	木材およびその製品ならびに木炭	9.9	5.6%	84	機械類	28.9	7.2%
23	食品工業で生じるくず・調整飼料	8.7	4.9%	35	たんばく系物質、変性でん粉、膠着剤および酵素	28.6	7.2%
9	コーヒー、茶、マテおよび香辛料	8.2	4.6%	23	食品工業で生じるくず・調整飼料	26.7	6.7%
3	魚・甲殻類・軟体動物など	6.9	3.9%	11	穀粉、加工穀物、麦芽、でん粉など	14.3	3.6%
72	鉄鋼	6.6	3.7%	21	各種の調製食料品	13.1	3.3%
84	機械類	6.0	3.4%	85	電気機器およびその部品	10.2	2.6%
63	紡織用繊維など	5.0	2.8%	20	野菜、果実、ナットその他植物の部分の調製品	10.1	2.5%
	その他	79.9	44.8%		その他	133.0	33.3%
	合計	178.3	100.0%		合計	399.3	100.0%

マレーシア				フィリピン			
HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア	HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア
39	プラスチックおよびその製品	22.7	16.9%	44	木材およびその製品ならびに木炭	33.8	39.3%
44	木材およびその製品ならびに木炭	22.6	16.9%	84	機械類	7.3	8.5%
94	家具・照明器具類	11.9	8.9%	8	食用果実、ナット、果実の皮など	6.5	7.6%
38	各種の化学工業生産品	9.5	7.1%	85	電気機器およびその部品	6.1	7.1%
85	電気機器およびその部品	6.8	5.0%	39	プラスチックおよびその製品	4.7	5.4%
29	有機化学品	6.6	4.9%	69	陶磁製品	2.8	3.2%
84	機械類	5.0	3.7%	20	野菜、果実、ナットその他植物の部分の調製品	2.1	2.5%
40	ゴムおよびその製品	4.7	3.5%	94	家具・照明器具類	1.9	2.2%
70	ガラスおよびその製品	3.7	2.7%	25	塩、硫酸、土石類、プラスター、石灰、セメント	1.9	2.2%
34	石けん・洗剤・ろうそくなど	2.9	2.2%	74	銅およびその製品	1.8	2.2%
	その他	37.8	28.2%		その他	17.0	19.8%
	合計	134.0	100.0%		合計	85.9	100.0%

インドネシア				シンガポール			
HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア	HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア
40	ゴムおよびその製品	46.1	19.2%	39	プラスチックおよびその製品	10.0	20.3%
48	紙・板紙・パルプ類	41.3	17.2%	19	穀物、ミルクなどの調製品、ベーカーリー製品	9.1	18.5%
44	木材およびその製品ならびに木炭	32.8	13.7%	18	コリアおよびその調製品	7.8	15.9%
39	プラスチックおよびその製品	18.7	7.8%	21	各種の調製食料品	4.6	9.4%
94	家具・照明器具類	8.6	3.6%	38	各種の化学工業生産品	4.5	9.2%
29	有機化学品	8.3	3.4%	84	機械類	1.7	3.4%
85	電気機器およびその部品	5.6	2.3%	74	銅およびその製品	1.4	2.9%
87	自動車・自動車部品	5.4	2.3%	29	有機化学品	1.2	2.5%
55	人造繊維の短繊維およびその織物	5.3	2.2%	27	石油・石炭ならびにこれらの蒸留物など	1.0	2.1%
84	機械類	5.3	2.2%	30	医療用品	1.0	2.0%
	その他	62.7	26.1%		その他	6.7	13.7%
	合計	240.1	100.0%		合計	49.1	100.0%

6か国合計			
HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア
39	プラスチックおよびその製品	140.9	13.0%
44	木材およびその製品ならびに木炭	102.0	9.4%
40	ゴムおよびその製品	90.1	8.3%
84	機械類	54.1	5.0%
94	家具・照明器具類	50.6	4.7%
48	紙・板紙・パルプ類	46.2	4.3%
23	食品工業で生じるくず・調整飼料	42.6	3.9%
85	電気機器およびその部品	39.8	3.7%
16	肉・魚などの調製品	36.4	3.4%
35	たんばく系物質、変性でん粉、膠着剤、酵素	32.9	3.0%
	その他	451.1	41.5%
	合計	1,086.7	100.0%

データ出所：財務省「貿易統計」より筆者作成

注：品目名は著者による要約

第6位は「紙・板紙・パルプ類」でシェアは4.3%となっている。このうち約9割がインドネシア積みである。インドネシアからはコピー用紙向けの紙が多く輸入され、現在では日本で使われているコピー用紙の3割がインドネシア製であるといわれており、コピー用紙がコンテナで運ばれているとみられる。第7位は「食品工業で生じるくず・調整飼料」でシェアは3.9%となっている。このうち、3分の1がタイ積みの飼料用の

調整品で占められ、3分の1がタイ積み、ベトナム積み、インドネシア積みの飼料用に用いられる植物のくずや材料で占められている。第8位は「電気機器およびその製品」であり、シェアは3.7%となっている。ベトナム積み、フィリピン積み、インドネシア積みの自動車用配線セット、マレーシア積みの液晶式モニターなどが主な製品である。第9位は「肉・魚などの調製品」で、シェアは3.4%となっている。このうち、約8割がタイ積みで、しかもその半分は鶏肉の調整品となっている。串の刺さった焼き鳥などがここに含まれる。第10位は「たんぱく系物質、変性でん粉、膠着剤、酵素」でシェアは3.0%となっているが、大半はタイ積みであり、せんべいやあられなどに用いられる化工でん粉がほとんどである。化工でん粉はベトナム積みのもも一部含まれている。

おわりに

前回と今回の記事では、日本・ASEAN間コンテナ輸送の動向を、日本からの輸出入についてまとめた。具体的には財務省が毎月発表している「貿易統計」のデータを用いて、海上コンテナ貨物量を推計し、過去10年間の推移を確認するとともに、直近のコンテナ輸送について品目別の動向を取りまとめた。貿易統計ではコンテナ輸送された貨物についてはかなり詳細にデータを記載しており、一部を推計する必要はあるものの、日本発着のコンテナ貨物の動向について相当の情報を得られる。

貿易統計のデータを基に推計を行った結果、日本とASEAN6か国間のコンテナ輸送はリーマンショック後の減少はあったものの、輸送量が比較的順調に伸びていることがわかった。ただし、輸出、輸入の双方についてベトナム、タイとの輸送量の増加が中心となっており、ASEANとの経済的な結びつきが強まっているとはいえ、その水準にはかなり大きな濃淡がある。ただし、今後に関していえば、東南アジアは中国からの生産拠点の移転を始め、大きな成長が見込まれているため、ベトナムのように短い間で急速に日本との貿易量を増やすこともあり得ない話ではない。

また、インバランスをみると、近年は少し小さくなっており、輸出と輸入のバランスが取れる方向に進んでいる。ただし、日本からの輸出量を増やすことはアジア方面への航路を維持するためにも重要なこととなってくるため、輸出品目の開発やコンテナ利用の拡大などを通じてインバランスを縮める方向の努力が今後も課題となるだろう。

以 上